



伯耆町学校給食キャラクター
伯まいちゃん

がっこうきゅうしょく

学校給食だより

令和6年度1月号



伯耆町立学校給食センター

新年あけましておめでとうございます。

今年度も、残すところあと3か月となりました。

引き続き、毎日の給食時間が待ち遠しくなるような、魅力ある給食作りに努めていきたいと思ひます。本年もよろしくお願ひいたします。



今年は巳(へび)年！

へびは、食べるときに獲物を丸のみしますが、皆さんは、よくかむことを意識して味わって食べましょう。



ぜん こく がっ こう きゅうしょくしゅう かん

1月24日～30日は、全国学校給食週間です！

日本の学校給食は、明治22年、山形県の私立忠愛小学校で提供されたのが始まりとされています。その後、各地に広まったものの、戦争による食料不足で中断されてしまいました。

戦後、子どもたちの栄養不足を改善するため、昭和21年にアメリカの支援団体から、給食用物資の寄贈を受けて、翌年1月から学校給食が再開されることになりました。昭和21年12月24日に、東京都内の小学校で給食用物資の贈呈式が行われたことから、この日を「学校給食感謝の日」としましたが、冬休みと重ならない1月24日～30日までの1週間を「全国学校給食週間」とすることが定められました。



時代の流れとともに変化を続ける「学校給食」ですが、いつの時代も、子どもたちを大切に思う気持ちがつまっています。そんな思いも感じておいしくいただきます。

学校給食の移り変わりを見てみよう！

明治22年	戦後(昭和20～30年代)	現在
ごはん しおざけ 菜のつけもの 私立忠愛小学校で提供されたとされる給食。	コッペパン ジャム 脱脂粉乳 せんぎり キャベツ くじら肉の たつたあげ 支援物資の脱脂粉乳や缶詰、小麦粉などを使った給食。	みかん アジフライ 牛乳 ごはん 地域でとれる旬の食材を取り入れ、郷土料理や行事食、世界の料理など、食育の教材となる給食。